

令和3年度 ミュージアムを活用した美術教育実践事業

目的

- ・本物の芸術と向き合いながら充実した鑑賞活動を行うことを通して、児童の豊かな感性を育む機会を創出する
- ・図画工作の鑑賞領域における教員の更なる指導力向上に資する。

I 県立美術館での鑑賞活動の様子

令和3年度は4年生を中心に、県内12市町の22校を県立美術館に招待し、鑑賞活動を実施しました。

児童は、それぞれが自分なりの見方や感じ方で、感想を自由に伝え合いました。また、「作品のどのような表現からそう感じるのか」についても考える場をもたせ、鑑賞の後は班や全体で振り返りをしました。美術館での活動の様子を紹介します。

Step1

美術館に着いたら、ガイドスタッフとのご対面。はじめの会で鑑賞のめあてと美術館での三つのマナーを確認しました。

【めあて】 展覧会を楽しもう！

【楽しむためのステキなヒント】

- ①からだを使っていろんな見方を試そう。
- ②自分なりの感じ方を大切にしよう。
- ③作品から感じたことを友だちと伝え合おう。

〔美術館での三つの約束〕

- ①作品にさわらない
- ②走らない
- ③大声を出さない



Step2

展示室では5人以内の班でガイドスタッフと一緒に作品鑑賞をしました。

座って見上げて「あれ？」、手で枠をつくってのぞいて「あっ！」、作品のまねをしてみても「むふふ」など、いろんな声が聞こえてきました。また、感じたことを班で自由に話し、見方や感じ方の違いを楽しみました。

Step3

展示室から帰ってきて、まずは同じ班のみんなと振り返り。「あの作品が気に入った！」「私はあの作品！」おうちの人に素敵なお土産話ができただろうか？

みんなの前でお土産話をお披露目し、「そうそう」「そうだった！」「こんな感じ」身振り手振りで教えてくれる姿がとても素敵でした。

楽しい時間はあっという間でした。帰るときにはガイドさんとエアタッチ。また来てね！

【新型コロナ感染症対策について】

令和3年度は新型コロナ感染症対策のため、バスを増便、班の人数を5人以内にする、入館時の検温等しました。

30人以上の学校については全体ではじめの会と振り返りの会をせず、班ごとに広い空間で行いました。

鑑賞活動の様子



鑑賞活動後の児童の感想

心に残った作品について教えてください

私の心に残ったのは、動いたら見え方が変わって見える作品です。正面から見たら普通の絵なのに、動くとその絵がぼやけて見えたので、すごいと思いました。（由布市立川西小学校）

父の像という作品が心に残っています。最初は「不思議で優しい目だなあ〜」と思っていましたが、色んな方向から見たら面白いことに自分のことをずっと見ている気がしました。（日田市立若宮小学校）

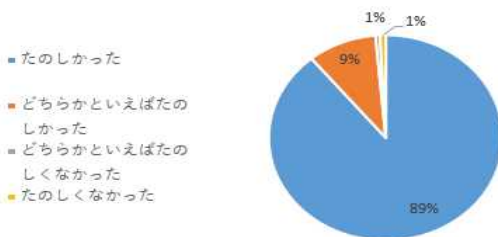
人が鳥が飛ぶのを見ている絵。弱っている鳥が飛べたと思ったからです。鳥が飛んでいる姿を見守っているように感じました。（別府市立春木川小学校）

「風の音」という作品です。最初に遠くから見た時は、犬が黒く見えただけ、近付いて見たら、犬が緑に見えたところが不思議でした。（竹田市立荻小学校）

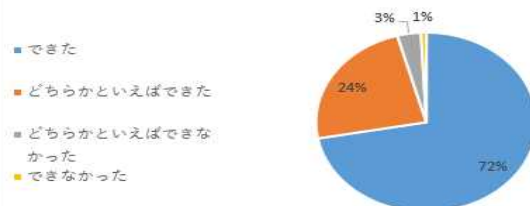
白竹のかごが心に残りました。昔の人は、自分より何倍か手先が器用ですごいと思ったから、もっとがんばろうと思いました。（佐伯市立明治小学校）

僕は「手」がしっくりきました。僕はあの不思議な切なさがよかったと感じました。（宇佐市立八幡小学校）

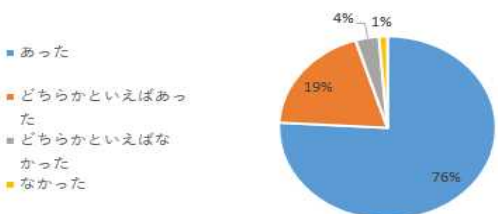
1 美術館ツアーは楽しかったですか



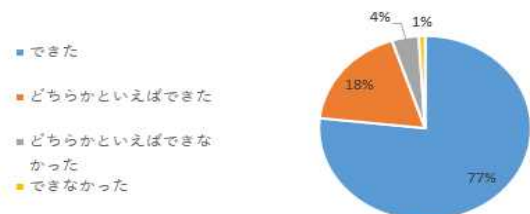
2 心とからだを使って色々な見方をすることができましたか。



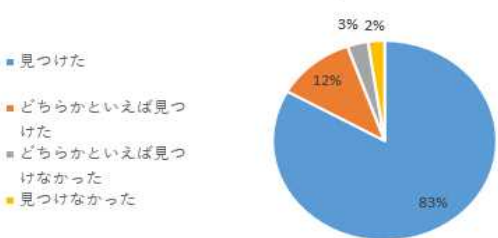
3 作品を見て、心に何か感じるものがありましたか。



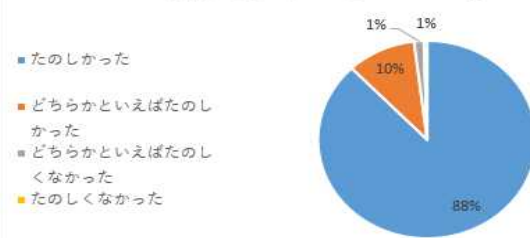
4 友だちやガイドさんと作品についてお話しできましたか。



5 好きな作品、心にのこる作品を見つけましたか。



6 美術館のガイドさんや学校の先生と一緒に作品を見て、どうでしたか。



Ⅱ 美術館での鑑賞後の授業実践の報告

小学校学習指導要領(平成29年告示) 図画工作科の「指導計画の作成と内容の取扱い」では、「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習が充実するようにすること」と示されています。また、鑑賞の指導に当たっては、「地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること」が示されています。

各学校では、美術館で体験した「色々な見方をする」こと「自分なりの見方や感じ方を持つ」こと、「感じたことを友だちと交流し、感じ方の違いを楽しむ」ことを図画工作の授業でも取り入れ、表現力を高める指導の工夫が求められます。

今年度の参加校も、美術館での鑑賞の活動を受けて、学校で図画工作科の授業実践に取り組み、児童の豊かな感性の育成を目指しました。参加した学校の実践の一部を紹介します。

材料について学びを深める実践 佐伯市立明治小学校

【題材名】「井崎川調査隊～お気に入りの色を作ろう編～」

【事後実践の概要】

井崎川から取ってきたお気に入りの石を金槌でつぶして、乳鉢でさらに細かくしたものをピグメントというパウダーにし、絵の具をつくりました。



みてみて～！
こんな色があったよ！

どんな色になるか石をすり潰している様子



拾った石について全体で交流している様子

- どんな色になるか楽しみ。
- 石の色と実際につぶして見た色が違って驚いた。
- こんなに綺麗な石が川にあるなんて思わなかった。
- 早く色を作ってみたい。



美術館で見た作品には自然から採取された鉱石が使われていること等について、実際に絵の具をつくる体験をすることで学びを深めています。児童たちにとって見慣れている石でも「宝物」に思えたのではないのでしょうか。

ふるさとのよさを生かした実践 別府市立南立石小学校

【題材名】「別府について表現しよう！」

【事後実践の概要】

大分県の偉人の作品を鑑賞した時に学んだ新しい表現技法や見方を児童同士で交流しました。総合的な学習の時間で学んだ「別府学」から、別府地獄や温泉など別府の観光スポットを調べました。子どもたちは調べた場所から一番おすすめしたい部分を、新しい表現技法(ペン画、水墨画)を使って「別府」を表現しました。



これ、立体的に見える？



どうやって描いたの？

なんかコツがあるのかな？



美術館で本物の作品を鑑賞した時の「どうやって描いているのかな？」からはじまる表現意欲をうまく引き出した実践です。児童同士でどうすればうまくいくかななどを共有しながら前のめりになって活動しています。



身近な人材を活用した実践 中津市立和田小学校

【題材名】自分の感じる鬼の様子を版画で表そう

【事後実践の概要】

本校の教頭先生から版画作りを学びました。クラスの児童が習っている「豊前神楽」の活動の様子を紹介し、鬼の面の下絵を描いて、木版画にし、相互鑑賞会をしました。



同じお面からつくったのに、いろいろな表情があっておもしろい。

見方や感じ方、発想の違いが自然と児童たちに受け入れられています。日頃先生方が児童たちの思いを大切にされていることが伝わってきます。

教頭先生を講師に迎え、何か特別な感じがします。児童たちの意欲が普段よりもさらに高まったのではないでしょうか。



感想

- みんな、同じものを見てるのに全然違う絵で、すごいな～と思いました。
- いろんな、色があってとても良いと思いました。
- 外の柄も、みんな、個性豊かで、良いな～と思いました。

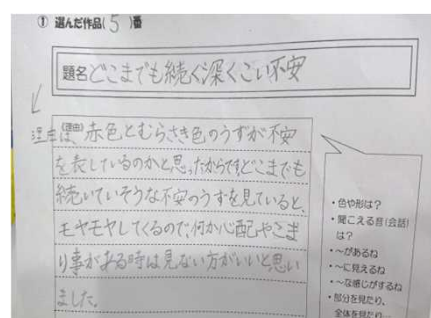


美術館での鑑賞活動を生かした実践 由布市立挾間小学校

【題材名】 作品のタイトルはこれだ！

【事後実践の概要】

32枚のアートカードを1班に1セットずつ配り、その中から自分の好きな(びびっとくる)カードを1枚選び、自分なりのタイトルをつけました。美術館での鑑賞活動を振り返り、色や形・聞こえる音(会話)などを視点に自由にタイトルを付けたり、そのタイトルにした理由について伝え合ったりしました。



題名をつけた理由から、感じ取ったことを安心して表現できている様子が窺えます。先生方が児童の見方や感じ方を大切にするとともに、美術館での児童の経験を大切にしながら指導しています。



文化施設を活用した実践 大分市立小佐井小学校

【題材名】 別府の竹細工の作品を鑑賞しよう

【事後実践の概要】

県立美術館での学習から1か月後、「別府竹細工伝統産業会館」に行きました。生野祥雲齋をはじめとする名工と呼ばれる作家の作品を鑑賞し、見る角度を変えたり、離れてみたりして、県立美術館で体験したからだ全体を使った鑑賞活動を生かすことができました。



正面から見ると、竹が輪のようになっていて美しい! 技術がすごい!

「大分が誇る本物の竹工芸を見せたい!」という先生の情熱を感じます。児童たちにとって、本物と出会って気づいたこと、学んだことは何より説得力があり、感性を磨く絶好の機会になります。



美術館の活動を共同制作に生かした実践 竹田市立荻小学校

【題材名】 みんなでつくろう 大きな世界

【事後実践の概要】

「大きな絵をみんなと一緒に作りたい。」「やってみたことのない切り絵をしたい。」という児童の願いから、切り絵で共同制作に取り組みました。カラフルなチューリップを花壇に咲かせ、春らしい様子を表現したいという構想をかためました。一人一本のチューリップをつくった後、分担をして、花壇のブロック、桜の花びら、雲、鳥などを制作し、大きなカラー模造紙に貼り付けて展示しました。



風船とかを飛ばすのもたのしいよね。



桜の花びらは、風に吹かれているような感じにしたいな。

どんなふうにならべると、きれいかな？離れてみてみよう。

表現するときも鑑賞するときも「友だちの感じ方はどうかな？」「もっといいものにしたい！」という児童の思いや願いが感じられます。また、お互いの思いを認め合い、温かな雰囲気伝わってきました。



ICTを活用して相互鑑賞を行う実践 日田市立若宮小学校

【題材名】 鉛筆アートに挑戦しよう

【事後実践の概要】

美術館で展示されていたデッサンについて振り返り、鉛筆だけで絵を描くことに挑戦しました。対象物をじっくり観察しながら鉛筆で明暗や色の濃淡をつけるなど、集中して取り組むことができました。途中で「鑑賞タイム」を設定したり、完成した後に作品を撮影してロイロノートで相互鑑賞をしたりして見方や感じ方を広げました。



遠くから見た感じもいいなあ。



美術館の作品などを見た後には、身近な対象物であっても、特別なものに見えてくる時があります。対象物に見られる凹凸やそれによってできる明暗の差を確認するために端末の写真を活用しています。また、できた作品を写真におさめることで、小学校図画工作で学んだことを将来、容易に振り返ることができるポートフォリオとしても活用できます。



令和3年度ミュージアムを活用した美術教育実践事業に係る 新型コロナウイルス感染症感染予防対策

	対策
実施前	<ul style="list-style-type: none"> ●実施計画 異なる学校が同時時間帯に重ならないような実施計画を作成 ●班編制 昨年度までは一班6人を基本としていたが5人以下に設定 ●送迎バス 児童同士の間隔を空けるために2席に一人が座れるようにバスを増便 ●児童・引率教員名簿の提出 感染が発生した場合に備え、児童・引率教員の名簿を提出
当日	<ul style="list-style-type: none"> ●検温 美術館入り口にて児童・引率教員の検温と手指の消毒を行っている。体温が37.5度以上ある場合は入館できない。入館できなかった児童がいる時のために、参加校は児童待機車両を一台準備 ●全員マスク等の着用 児童、引率教員等は全員マスクを着用 ●研修室の利用 密を避けるために30人以上の学校は、はじめの会等を班ごとに広い空間で行い、振り返りのアケート記入は学校で記入し後日義務教育課担当に送付 ●水筒の持参 館内にあるウォータークーラーは使用禁止。水筒を持参 ●鑑賞時の間合い コレクション展示室に入る班の数については時間差を付けて少数班で入室
実施後	<ul style="list-style-type: none"> ●研修室の消毒 使用した研修室は毎回消毒

令和3年度ミュージアムを活用した美術教育実践事業 実施校

月	日	曜	時間	(市町村名) 学校名
9	27	月	AM	由布市川西小学校
10	4	月	AM	宇佐市立宇佐小学校
	5	火	AM	日出町立藤原小学校
	7	木	AM	別府市立春木川小学校
	15	金	AM	由布市立挾間小学校
			PM	
	18	月	AM	臼杵市立上北小学校
	21	木	AM	国東市立安岐小学校
	22	金	AM	宇佐市立八幡小学校
			PM	国東市立小原小学校
	25	月	PM	別府市立南立石小学校
	28	木	AM	津久見市立千怒小学校
			PM	中津市立上津小学校
29	金	AM	日田市立若宮小学校	
		PM	中津市立豊田小学校	
11	11	木	AM	佐伯市立明治小学校
			PM	竹田市立荻小学校
	12	金	AM	大分市立小佐井小学校
			PM	宇佐市立佐田小学校
	19	金	AM	別府市立朝日小学校
PM				
12	9	木	AM	宇佐市立津房小学校
	10	金	AM	中津市立和田小学校
	13	月	AM	宇佐市立四日市南小学校

※令和4年1月と2月に実施が予定されていた4校は、まん延防止等重点措置の期間等のため残念ながら中止となりました。